

# タオルの製造(地場産業)

坂口佐タオル有限会社

ここ泉州地域(熊取町、泉佐野市、泉南市)は、1890年代頃からタオルの製造が盛んで、「泉州タオル」と総称されています。タオルのつくり方には、先晒(さきさらし)と後晒(あとさらし)の2種類があります。<\*1>

「泉州タオル」は、織りあがった後で晒や水洗いを行っている後晒ですので、清潔で仕上げ後の縮みは殆どありませんし、吸水性に優れており、肌ざわりがソフトです。

<\*1>タオルに使う綿糸は織り易くするために、ノリやロウなどで強さを増し、滑りを良くします。そのため織りあがったままのタオル地は水をはじき、吸水性の悪いものです。後晒タオルは織った後で「さらし」の工程が入るので、ノリは洗い流され吸水性の良いタオルになります。



熊取町のマスコット「メジーナちゃん」のタオルハンカチ

## 製造工程

タオルの製造は、

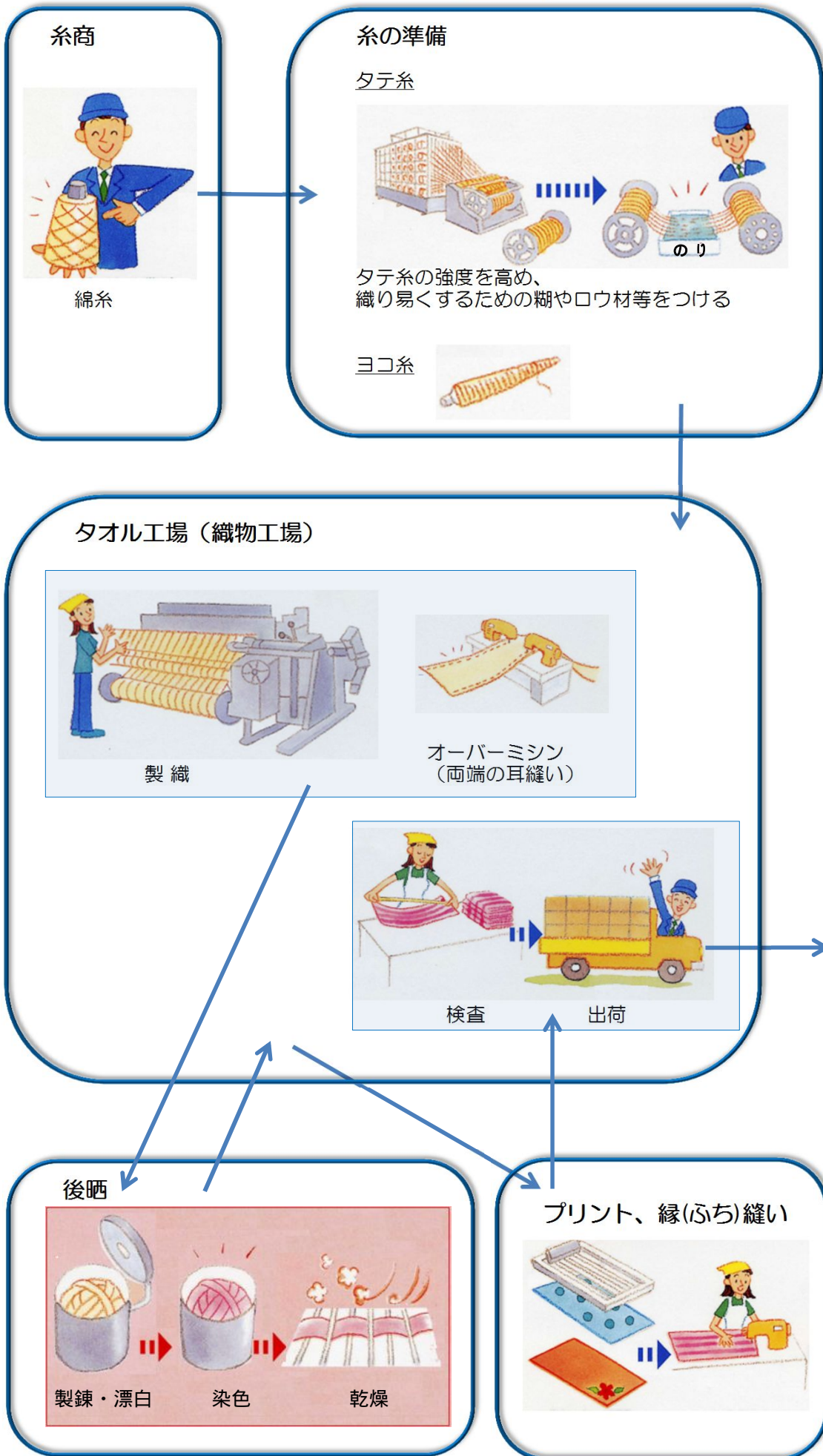
- ・綿糸の準備
- ・製織(タオルを織る)
- ・漂白、染色
- ・プリント・刺繍、縫製

検品、出荷

の工程を経て出来上がります。

# タオルができるまで

下記の工程図の  は、それぞれの専門の工場です。



## タオル産業の特徴

ここ泉州では、タオル製造のそれぞれの工程ごとに、地元の工場が分業して担当しており、その最終製品は織物工場から出荷されます。

このように、地域の各工場が分業・協力して生産しているのが、タオルの地場産業の特徴です。

現在、織物工場は約100社、その周辺の加工協力工場は約400社、併せて500社の企業連合で、「泉州タオル」を製造しております。

## タオル工場(織物工場)



工場内の織機群



製織



織機の設定・保守作業



タオルの両端の耳縫い

タオル織機は、タテ糸(上糸と下糸:数千本)とヨコ糸(1本)で織り上げていきます。製造スピードは、ヨコ糸を如何に速く織るかにかかっており、現在は、毎分200~400回位のスピードで織り上げていきます。(1ダース(12枚)のタオルを織るのに、5分位のスピード)

このヨコ糸を高速で織る技術は、自動車のエンジン(タービン技術)と共通で、日本、ドイツ、イタリア製の織機が優れています。

## 製品

メイン製品は、名入れタオル(企業名を入れた贈答用のフェイスタオル、約35cm×85cm)ですが、この他にも、いろんな要望に沿ったサイズのタオル(ハンドタオル、スポーツタオル、バスタオル等)を生産しています。



地場産タオルの問合せ先

熊取町商工会

〒590-0451 大阪府泉南郡熊取町野田2丁目9番20号

電話:072-453-8181

(株)じばしん(ショップひまわり内)

〒590-0415 大阪府泉南郡熊取町五門西1丁目10番1号

電話:072-452-1428

(「じばしん」ではタオルの販売もしております)